

演心力～広げよう演劇の輪～

講評速報 1号

12月24日(火)

【富山】	新湊高等学校
うさみくんのお姉ちゃん	
<p>過去の経験から教室に入れなくなった溝呂木くんが、人との関わりに葛藤しながら成長していく物語。</p> <p>舞台上には教室が作られており、背面黑板や廊下までの細かな作り込みでよりリアルに感じられた。また、廊下に面する窓を曇りガラスにすることによって、視線を奪われることなく人の存在だけを匂わせる効果があった。照明は、前半は全く動かされおらず後半で大きく変化させることで、次第に前向きになる溝呂木くんの心の成長がより鮮明に表現されていた。また、役者の衣装について、学年によって靴の色が違うなど細かな工夫もされていた。</p> <p>笑いが起こるシーンとメッセージ性が強いシーンのメリハリが効いていて、観客の集中力を途切れさせることがなかった。</p> <p>劇中何度も歌われた「アンパンマンのマーチ」は、昔を懐かしむように歌っていたり、溝呂木くんへの応援歌として歌っていたり、同じ曲だが場面によって聞こえ方が全く違っていた。それにより歌詞やこの曲について様々な視点から考えさせられた。全員で歌うシーンが二度あったが、一回目はフルート演奏があり賑やかな印象だったのに対し、二回目は全員で歌ったことで力強い印象になっていた。</p> <p>この「アンパンマンのマーチ」については、溝呂木くんの歌い方に関する話題が上がった。序盤、「こたえられないなんて そんなのはいやだ」という歌詞を歌いきることができなかった溝呂木くんだったが、終盤、みんなに励まされて力強く歌い切っていた。この時最後に溝呂木くんが前を向いて叫ぶように「いやだ！」と歌ったことについて、勇気を振り絞った彼自身の変化や、前を向こうという気持ちが溢れ出した結果なのではないかという意見が出た。その様子に、私たちも思わず溝呂木くんを応援していた。</p> <p>タイトルにあるうさみくんのお姉ちゃんであるあかねは、最初こそ気が強い印象だったが、劇が進むにつれて本来の優しい姿が見えてきたように思う。事情も知らずに溝呂木くんを励ましたり、態度の悪いクラスメート二人を厳しく叱責したりするところに、彼女の本質がよく表れていた。また、あかねが溝呂木くんに歌詞について問いかけるシーンには「愛と勇気は自分で探して持つしかない」という台詞があり、この物語の核を彼女らしいストレートな言葉で表していると感じた。</p> <p>葛藤を抱える少年の変化と成長を、彼を支えるあかねや周りの友人たちとのふれあいを通して描くことで、見る者に温かな感動を与えるとともに、愛と勇気という大きく普遍的なテーマがしっかりと伝わる劇だった。</p>	